

○副議長（茅根猛君） 日程第１，一般質問を行います。

昨日に引き続き，通告順に発言を許します。

９番福地正文君の発言を許します。

〔９番 福地正文君登壇〕

○９番（福地正文君） おはようございます。９番福地正文です。通告どおり，少子化問題と環境の形成について，一般質問いたします。

本市におきまして，最も深刻な問題は少子化問題であると言っても過言ではないと思います。大会初日の市長からの施政方針にもありましたように，平成２２年度重点戦略の中で，子育てしやすい環境整備を図ると力強いお言葉がありました。これこそが，１丁目１番地の課題となり得ることから，大久保市長の心意気を感じられました。ぜひとも予算編成に反映していただきたく，冒頭申し上げておきます。よろしくお願いを申し上げます。

最近，私，思うこと，ここ最近には見当たらない少なくなってきたことであります。私は宝石そのものにはさほど興味がありません。ここでいう宝石とは，子どものことです。見つけると宝石がいたと叫ぶ私であります。実に，町中を歩いていても，赤ちゃんを見かけることは少なくなり，寂しささえ感じるきょうこのごろであります。我が国では昭和４０年代後半の第２次ベビーブーム以降，３０年以上にわたって出生数，出生率の低下傾向が続いており，早急に少子化が進んでまいっております。近年の出生率低下は主として初婚年齢の上昇，いわゆる晩婚化や結婚しない人の増加，非婚化によるものとされており，男女とも晩婚化の第１位の理由として，結婚を選択したくない人の増加を挙げるものが多く，ついで，男性は経済的にゆとりがない，女性は女性の経済力が向上した，これを挙げております。こうした非婚化現象と少子化現象は重なり合っているところが多く，どうしても結婚についてを意識に焦点を当てざるを得ません。ここで伺いするのですが，本市としていかに検討され，今後未婚者へどのように意識づけをされていかれるのか，結婚成立に向けた行政としてやっていただきたい，結婚推進事業の考え方，さらに取り組み方をお尋ね申し上げます。

次に，２点目，子育て支援の充実におきましては，各執行部関係者のすばらしい取り組みにより，本市独自の施策がなされ遂行されていると承知しております。国における少子化対策の取り組みも平成初期からエンゼルプラン，そして次世代育成支援対策推進法が打ち出され，本市におきまして，平成１７年３月に常陸太田市次世代育成支援地域行動計画を策定し，地域における子育て支援の充実と，すべての子どものための支援を総合的かつ計画的に進められておるようですが，今後，方針をお聞かせいただければと思います。

以上２点，わかりやすくご答弁をお願い申し上げます。

以上で１回目の質問を終わります。

○副議長（茅根猛君） 答弁を求めます。政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

○政策企画部長（江幡治君） 少子化問題と環境の形成についての中での結婚の成立に向けた政策についてのご質問にお答えをいたします。

結婚の推進事業につきましては、平成１９年度から結婚対象者の視点でより効果的な事業の展開ができるよう、市内のＮＰＯ法人でありますグリーンピア常陸太田に委託をして事業を進めております。これまでの実施状況でございますが、平成１９年度には交流会を２回、平成２０年度には交流会を５回開催しております。そのうちの２回はいばらき出会いサポートセンターとの連携事業として実施をまいりました。本年度は５回の交流会等を開催しておりますが、この中で東京の民間大手結婚相談事業者との連携によりまして、農業体験を希望する都会の女性との交流会及び男性のセンスアップセミナーを開催してまいりました。交流会におきましては、毎回数組のカップルが誕生しておりますが、この中で現在も３組が交際を続けており、そのうちの１組が５月に挙式予定と聞いております。今後もさらに、いばらき出会いサポートセンターや民間事業者との連携強化を図りますとともに、平成２２年度におきましては、結婚希望者が気軽に相談できる結婚相談室を設置することとしております。また、独身の男女が気軽に参加できる出会いの場の開設など、積極的に推進してまいりたいと考えております。

○副議長（茅根猛君） 福祉事務所長。

〔福祉事務所長 深澤菊一君登壇〕

○福祉事務所長（深澤菊一君） 子育て支援充実についてのご質問にお答えいたします。

子育て環境を取り巻く状況については、少子化の進行や核家族化、また子育てに対する意識の多様化など家庭や地域における状況も変化してきている中で、早急な少子化対策への対応が必要となっております。このような中、少子化対策等への取り組みへの推進を図るため、次世代育成支援地域行動計画前期計画に掲げた各事業において保護者や地域、学校、ボランティア団体等関係機関との連携により、子どもの健やかな成長や子どもと家庭に対する支援、また子育てへの経済的負担軽減等を図る支援事業として、保育園における子育て支援センター設置、ゼロ歳児から預かる低年齢児保育や保育時間延長等による保育サービス、子どもや母親等に対する健診や相談体制の充実、医療費助成の拡充や乳児おむつ購入費助成等の経済的支援、また仕事と子育てへの両立支援への対応として、子どもを自宅等で見守るファミリー・サポート・センター事業や放課後の児童の健全育成を図る放課後児童クラブ事業などにより、子育て支援に向けた取り組みを進めてきているところでございます。

さらに、支援策の充実を図るため、少子化対策プロジェクト会議においての検討や平成２２年度から取り組む次世代育成支援地域行動計画後期計画策定におけるニーズ調査や前期計画への事業推進等を踏まえ、家庭を築く大切さや子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり、また地域ぐるみで子育てを支える支援策等を進めるため、保育園幼稚園における第３子以降児の保育料無料化、４保育園においての保育時間の延長拡大、放課後児童クラブにおける土曜日開設、預かり時間の延長、また地域における子育て支援の交流の場としての公民館等を利用した子育て広場の開設、さらに市ホームページを活用した子育て支援等に関する情報発信への取り組みなど、少子化対策における子育て支援の充実に向けた多様な取り組みについてさらに推進を図ってまいります。

以上でございます。

○副議長（茅根猛君） ９番福地正文君。

〔 9 番 福地正文君登壇 〕

○ 9 番（福地正文君） ご答弁ありがとうございました。

ただいま，おのおのご答弁をいただきました 1 点目，結婚相談室の開設，2 点目，次世代育成支援地域行動計画後期計画事業と，これからの当市の少子化問題にどう対処すべきか，前途多難でしょうけれども，成果が見られるまで粘り強くお力添えのほどよろしくお願いを申し上げます。

少子化，子育て支援は地域社会全体，市民や地域や企業，行政相互の連携と協力を図りながら取り組むべきものでありますことから，現場主義を貫き，励んでほしいと思っております。

この現場主義とは，待ちではなく出向くということです。商いでも待ち商売ではなく，訪問，足を運ぶということであります。先日，中学校へ出向き男子生徒と少子化について語らう機会を持つことができました。多くの声を得ることができ，子どもたちは友だちが少なくなってきたてつまらない。寂しい。遊び相手がいなくておもしろくない。もっと子どもの数が多いほうが明るい気持ちになれるなど，実感のこもる言葉でありました。子どもの口から少子化という言葉が聞かれるほどに，切実な問題であることを知らされ，認識の度合いもアップいたしました。執行部の皆様にも再認識していただきたく申し上げるわけでございます。

最後になりますが，結婚のあり方，家庭のあり方，子育てに対する人々の考え方，これらは人生感にかかわる問題であるだけに，施策，効果を発揮しにくいことは間違いないと思います。しかしながら，少子化に歯止めをかけるには単に結婚や子育てを支援するのみならず，若い方々が当市の将来に夢や希望が持てる地域づくり，結婚して家庭を持ち，夫婦が力をあわせて子育てに励むことはすばらしい生き方であるという価値観を共有することができる常陸太田市づくりを目指すことが必要であり，このことを願い私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。